

第10章 キャリア教育

1 キャリア教育の定義

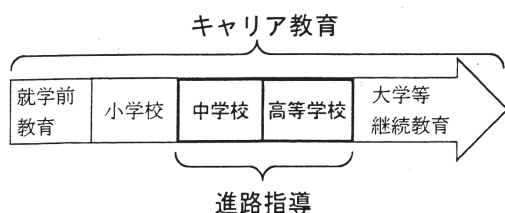
(1) キャリア教育とは

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

キャリア教育は、子供・若者がキャリアを形成していくために必要な能力や態度の育成を目標とする教育的働きかけである。そして、キャリアの形成にとって重要なのは、自らの力で生き方を選択していくことができるよう必要な能力や態度を身に付けることにある。したがって、キャリア教育は、子供・若者一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な能力や態度を育てることを目指すものである。自分が自分として生きるために、「学び続けたい」「働き続けたい」と強く願い、それを実現させていく姿がキャリア教育の目指す子供・若者の姿なのである。

キャリア教育と進路指導の関係

進路指導のねらいは、キャリア教育の目指すところとほぼ同じであるが、進路指導は中学校・高等学校に限定された教育活動である。



(2) キャリアとは

人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである。

人は、他者や社会との関わりの中で、

職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担いながら生きている。これらの役割は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、つながっていくものである。また、様々な役割の関係や価値を自ら判断し、取捨選択や創造を重ねながら取り組んでいる。

人は、このような自分の役割を果たして活動すること、つまり「働くこと」を通して、人や社会に関わることになり、その関わり方の違いが「自分らしい生き方」となっていくものである。

このように、人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである。

(3) キャリア発達とは

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を「キャリア」という。

子供の心と体は、発達の階段を一步一步上っていきながら成長していく。そうした発達過程にある子供たち一人一人が、それぞれの段階に応じて、適切に自己と働くこととの関係付けを行い、自立的に自己の人生を方向付けていく過程、言い換えると「自己の知的、身体的、情緒的、社会的な特徴を一人一人の生き方として統合していく過程」が「キャリア発達」である。具体的には、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことがキャリア発達の過程ととらえる。

(4) キャリア教育で育成すべき力

－「基礎的・汎用的能力とは」－

「社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力」



「基礎的・汎用的能力」

社会的・職業的自立に向けて必要となる能力である「基礎的・汎用的能力」は、以下に示す4つの能力によって構成される。

ア 人間関係形成・社会形成能力

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。具体的な要素としては、例えば、他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ等が挙げられる。

イ 自己理解・自己管理能力

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。具体的な要素としては、例えば、自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等が挙げられる。

ウ 課題対応能力

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。具体的な要素としては、情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等が挙げられる。

エ キャリアプランニング能力

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付

け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。具体的な要素としては、例えば、学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等が挙げられる。

2 各学校種におけるキャリア教育

(1) 小学校

小学校段階は、社会人として必要な自律性や社会性を育て、一人一人の児童がそれぞれの進路を探索・選択する力を培う上で、重要な基盤を形成する大切な時期である。

学級・学校・家庭・地域社会等における様々な活動を通して、将来設計の基盤となる「夢や希望」を育み、目標の達成を目指して工夫し努力することの大切さを体得させ、自身の有用感を高める機会を計画的に設けていくことが大切である。

特に小学校では、豊かなキャリア教育の実践によって、家族や友達、身近な地域の人々への関心や信頼感を高め、多角的な視野から他者を理解するための基礎となる力を養い、人々が自らの責任を果たしつつ相互に支え合って様々な集団や社会を築いている事実に気付かせる必要がある。そして、児童一人一人がそのような集団としての学校や家庭、ひいては社会の重要な一員であることを、実感を伴って理解できるようにすることが重要である。

(2) 中学校

中学生になると、自我の目覚めや、独立の欲求が高まるとともに、人間関係も広がり、社会の一員としての自分の役割や責任の自覚が芽生えてくる。ま

た、他者と関わり、様々な葛藤や経験の中で、自らの人生や生き方への関心が高まり、自分の生き方を模索し、夢や理想をもつ時期であると同時に、高等学校入学者選抜をはじめとする現実的な進路の選択を迫られ、自分の意思と責任で決定しなければならない時期でもある。このように、中学生の時期はキャリア教育実践にとって極めて重要である。

これを踏まえ、中学校段階では、社会における自らの役割や将来の生き方・働き方等についてしっかりと考えさせるとともに、目標を立てて計画的に取り組む態度の育成等について、体験を通じて理解を深めさせ、進路の選択・決定へと導くことが重要である。具体的には、「肯定的自己理解と自己有用感の獲得」「興味・関心等に基づく勤労観・職業観の形成」「進路計画の立案と暫定的選択」「生き方や進路に関する現実的探索」等を柱としたキャリア教育の実践が期待されている。

(3) 特別支援学校

特別支援学校においては、個々の障害の状態に応じたきめ細かい指導・支援の下で、適切なキャリア教育を行うことが重要である。

障害のある児童生徒については、自己の抱える学習や社会生活上の困難について総合的に適切な認識・理解を深め、困難さを乗り越えるための能力や対処方法を身に付けるとともに、職業適性を幅広く切り開くことができるよう、個々の特性・ニーズにきめ細かく対応し、職場体験活動の機会の拡大や体系的なソーシャルスキルトレーニングの導入等、適切な指導や支援を行うことが必要である。

その際、学校は、医療・福祉・保健・労働等の関係機関との連携により作成

した個別の教育支援計画を活用して、生徒や保護者の希望も尊重しながら、生徒が主体的に自らの進路を選択・決定できるよう、適切な時期に必要な情報を提供するなど、進路指導の充実に努めることが重要である。

3 キャリア・パスポート

(1) キャリア・パスポートとは

学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行う際に、児童生徒が自らの学習活動等の学びのプロセスを記述し振り返ることができるポートフォリオである。

小学校から高等学校までの記録を一冊に綴じ込むこととする。

(2) キャリア・パスポートの活用

各学年において、日常の授業や行事等の記録を基礎資料とし、振り返りや社会生活で見通しを立てるために有効なものとなるように厳選し、作成する。特に、子供たちが自己評価を行っているものや、教員が対話的に関わり作成された資料であるように配慮する。

学校生活の節目や校種が変わる際に、自身の考えの変遷や成長を振り返り、見取することで、キャリア発達を支援するようにする。

《参考・引用文献》

- ・中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申） 平成23年1月31日
- ・文部科学省「小学校キャリア教育の手引き—小学校学習指導要領（平成29年告示）準拠—」 令和4年3月
- ・文部科学省「中学校・高等学校キャリア教育の手引き—中学校・高等学校学習指導要領（平成29年・30年告示）準拠—」 令和5年3月
- ・文部科学省「『キャリア・パスポート』例示資料について」（令和元年）